

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成26年度継続評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
次世代移動通信の国際協調に向けた国際機関等との連絡調整事務	H24-H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つの周波数帯をIMTに追加周波数帯として提案できた。</li> <li>・ITU-R SG5 WP5D第16回会合を日本で開催するなど評価できる。</li> <li>・WRC-15に向けた周波数割当に関する国際協調、とりわけ日中韓との連携、ならびに、第5世代移動通信システムに関する議論が始まったことから、今後とも積極的に活動していただきたい。</li> </ul>	4.3
79GHz帯等を用いた移動通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H24-H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITS用の79GHz帯レーダーは産業戦略的に重要な国際標準化テーマであり、WRC-15に向けて全力的に取り組む必要がある。</li> <li>・700MHz帯のITS応用という我が国独自の技術提案が国際的な支持を得られるような活動をもっと期待したい。</li> <li>・車車間通信は今後急速に発展していくと考える。ITS関連とも連携して進めること。700MHz帯の仲間作りが必要。</li> </ul>	4.3
次世代GMDSS(全世界的な海上遭難・安全システム)の要素技術の国際標準化	H24-H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型船と小型漁船の衝突など、沿岸での海難事故を未然に防ぐためのシステムの整備は特に重要であろう。VHF帯データ通信はそれに関連していると思われるが、日本として積極的な提案に務めて欲しい。</li> <li>・我が国からの次世代GMDSSに関する方式提案が認められ、勧告案のベースとなるように、各国の支持を得る努力を引き続き行っていただきたい。</li> <li>・次世代GMDSSの国際標準化に際して、IMO、ITU、APT、IALAとの調整が重要であり、これらの組織とのバランス調整がうまくとれている。</li> </ul>	4.3
ミリ波帯を用いた高速移動体の大容量無線通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H25-H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国が開発しているミリ波帯を用いた高速移動体向けの大容量無線通信技術について、ITU-Rでの国際標準を目指す意義は高い。それに向けての国際機関等との連絡調整事務に関する目標はおおむね達成されていると考えられる。</li> <li>・ミリ波帯を高速移動通信に利用する我が国からの提案である。各国の状況を把握し、40GHz帯で標準化ができるのか、そのための戦略を考えること。</li> <li>・鉄道関係への応用が技術的にインパクトがあると考えられる。高速鉄道への技術基準・標準化で40GHz技術をアピールして欲しい。</li> </ul>	3.9
固定無線アクセス技術等の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H25-H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用度の低いミリ波帯などの固定無線アクセス技術の国際標準化を進めることは評価でき、それに向けての支援活動を適切に行っていると思われる。</li> <li>・固定無線システムのタスクグループ(TG-FWS)を設置し議長を日本から出した。ITU-R F.1336-3では日本提案による改訂案が作成されるなど成果が出ている。</li> <li>・120GHz帯のFPU回線などの技術的先進性を有している日本として、国際標準化でもリーダーシップを取っていく必要がある。</li> </ul>	4.0
屋内環境における電波雑音特性等の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H25-H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SG1 WP1Cへの寄与と電波雑音調査への期待を受けるなど成果を得た。</li> <li>・単に科学的好奇心を満たすデータベースの作成を目指すだけでなく、SG3を除く他WGへの我が国からのシステム提案をサポートするようなデータの提供や電波雑音特性に関する勧告の策定を意識して行ってもらいたい。</li> <li>・技術試験事務とのリンクを密にして実施して欲しい。計測法自体の標準化も必要である。</li> </ul>	4.0